



**JASDAQ**

平成 30 年 11 月 13 日

各位

会社名 株式会社エヌジェイホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 筒井 俊光  
(JASDAQ・コード 9421)  
問合せ先  
役職・氏名 経営企画室長 野澤 創一  
電話 03-5418-8128

業績予想の修正並びに  
特別損失の計上及び特別利益の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 30 年 8 月 13 日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました平成 31 年 3 月期の通期連結業績予想を、下記のとおり修正しましたので、お知らせするとともに、特別損失の計上及び特別利益の計上をいたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 31 年 3 月期 通期連結業績予想の修正

(1) 通期 (平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	11,000	500	510	460	円 銭 86.91
今回修正 (B)	11,200	350	310	250	47.23
増減額 (B－A)	200	△150	△200	△210	－
増減率	1.8%	△30.0%	△39.2%	△45.7%	－
(ご参考)平成 30 年 3 月期実績	11,328	664	667	519	98.45

(注) 当社は、平成 30 年 4 月 1 日付で普通株式 1 株につき普通株式 2 株の割合で株式分割を行いました。平成 30 年 3 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 修正の理由

売上高については、ゲーム事業において、株式会社 ISAO よりゲーム運営サポート事業を承継し

たことによる増収要因があるものの、上期において一部案件の納品が下期にずれ込んだことや増床タイミングの関係から開始時期が下期にずれ込んだ新規開発案件があり、当該ずれ込みによる上期減収分の全部までは下期で取り戻しきれない見通しであることや、開発の遅延等による減収要因が見込まれること、また、(株)ブームの事業再生が遅れていることから、前回予想を少し上回るにとどまる見込みです。

営業利益については、ゲーム事業において、株式会社 ISAO より承継したゲーム運営サポート事業による増益要因は一定程度見込むものの、上記下期ずれ込みによる上期減益分の下期での取り戻しについては、開発原価を要することや増床による一時的な原価増加もあり上期の減益分はカバーしきれない見通しであること、また、開発の遅延等に伴う減益要因が見込まれることや、(株)ブームの事業再生が遅れていることから、前回予想を下回る見込みです。

経常利益については、モバイル事業における通信事業者による店舗改装の支援方式の変更や、外部借入の増加に伴う営業外費用の増加から、前回予想を下回る見込みです。

親会社株主に帰属する当期純利益については、上記の減益要因に、下記「2. 特別損失の計上」及び「3. 特別利益の計上」を加味し、法人税等を考慮した結果、前回予想を下回る見込みです。

売上高は、11,200 百万円となる見込みです。(前回予想は、11,000 百万円)

営業利益は、350 百万円となる見込みです。(前回予想は、500 百万円)

経常利益は、310 百万円となる見込みです。(前回予想は、510 百万円)

親会社株主に帰属する当期純利益は、250 百万円となる見込みです。(前回予想は、460 百万円)

なお、平成 30 年 10 月 1 日付「株式会社 ISAO のゲーム運営サポート事業の会社分割(吸収分割)による承継の完了に関するお知らせ」のとおり、当該承継は完了しており、当期下期における業績への影響については、修正予想値に織り込んでおりますが、のれんの額については精査中であり、現在算定中の概算額をもとにしております。

## 2. 特別損失の計上

### (1) ブーム事業ののれんの減損

当社子会社である株式会社ブーム(新生ブーム)は、平成 29 年 5 月 1 日に民事再生手続の開始決定を受けた株式会社ブーム(旧ブーム)から事業再生を目的とした計画外事業譲渡により、旧ブームの事業を譲り受けており、のれんを計上しておりますが、事業損益の改善が遅れており、将来計画の見通しについて見直しを行いました。この結果、のれんの減損損失として 38 百万円を特別損失に計上いたします。

### (2) 株式会社ブーム株式に係る減損(個別決算)

上記の見直しに伴い、当社個別決算において、同社株式の実質価額が著しく低下したため、「金融商品に関する会計基準」に基づき減損処理を行い、子会社株式評価損として 40 百万円を特別損失に計上いたします。なお、本株式減損は、子会社株式の減損であるため、連結業績には影響ありません。

## 3. 特別利益の計上

平成 30 年 7 月 2 日付「資本業務提携及び連結子会社の異動(株式の一部譲渡)に関するお知らせ」にてお知らせいたしましたとおり、株式会社トーテック株式の 70%を DELTA Holdings 株式会社

に譲渡しておりますが、当該譲渡に伴う売却益の連結における計上額について精査をいたしました結果、当第2四半期連結会計期間において関係会社株式売却益 115 百万円を特別利益に計上いたします。

以上